

ヘモグロビン A1c について

堀越医院 院長
堀越 健太郎 先生

糖尿病の診断・治療において、血糖値と共に欠かせない指標であるヘモグロビン A1c (HbA1c) については多くの方がご存じかと思います。平成 24 年 4 月より日本国内の日常診療において、ヘモグロビン A1c (HbA1c) 値の表記が変更されました。ヘモグロビン A1c 値については、欧米では国際標準ヘモグロビン A1c 値 (NGSP 値) が使用されていますが、日本においては一般診療や検診に関して独自の日本基準ヘモグロビン A1c 値 (JDS 値) が使用されてきました。測定法の違いから両者の数値間に 0.4% の差があり、実際には日本基準値 (JDS) に 0.4% を足した値が国際標準値 (NGSP) とされています。これまで使用されていた日本基準値の精度管理は優れたものであり、国際標準に劣っていたというわけではありません。要は欧米の基準に合わせるということであり、日本国内での一般臨床における表記変更の準備が整ったため本年度から実施されることになりました。

皆さんが受ける日常診療などにおいて、今後 HbA1c 値の結果表記がこれまでより 0.4% 高い値で表記されますので (したがって正常範囲についても、これまでより 0.4% 高い範囲で表記されます)、自分の HbA1c 結果を見て最初は少し判断に戸惑う人もいるかもしれません。誤解を招かぬよう今後しばらく、血液検査結果票などには日本基準値と国際標準値が併記されますが、分からない点があれば医療従事者にお尋ねください。なお、糖尿病の診断基準や治療の指針自体に何ら変更があるわけではありません。